

JICA 教師研修 学習指導案・授業実践報告書

【実践者】

氏名	大野 健人	学校名	東京都立大泉高等学校 ・附属中学校
担当教科等	地理	対象学年（人数）	I年 II組（40名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2021年 10月 11日（1時間）		

【実践概要】

1. 実践する教科・領域：社会（地理）							
2. 単元(活動)名：アフリカ州							
<p>3. 授業テーマ（タイトル）と単元目標</p> <p>授業テーマ：「アフリカの産業と新たな開発」</p> <p>単元目標：アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解する。</p> <p style="padding-left: 20px;">アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解する。</p> <p style="padding-left: 20px;">アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目し、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察、表現する。</p> <p style="padding-left: 20px;">アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究する。</p> <p>関連する学習指導要領上の目標</p> <p style="padding-left: 20px;">社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。</p>							
4. 単元の 評価規準	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 15%; padding: 5px;">①知識及び技能</td> <td style="padding: 5px;">アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。 アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解することができる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">②思考力、判断力、表現力等</td> <td style="padding: 5px;">アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">③学びに向かう力、人間性等</td> <td style="padding: 5px;">アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究することができる。</td> </tr> </table>	①知識及び技能	アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。 アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解することができる。	②思考力、判断力、表現力等	アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。	③学びに向かう力、人間性等	アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究することができる。
①知識及び技能	アフリカ州で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解することができる。 アフリカ州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解することができる。						
②思考力、判断力、表現力等	アフリカ州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結び付きなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することができる。						
③学びに向かう力、人間性等	アフリカ州について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究することができる。						
5. 単元設定 の理由・ 単元の意義 (生徒観、 教材観、 指導観)	<p>【単元設定の理由】</p> <p>空間的相互依存作用や地域などに関わる視点に着目して、世界の各地域で見られる地球的課題の要因や影響をその地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現する力を育成するため。</p> <p>【単元の意義】</p> <p>世界の人々の生活や環境の多様性、それらの相互依存関係を理解できるようになる。</p> <p>【生徒観】</p> <p>本学級は、日頃からやるべきことをわきまえて生活している生徒が多く、穏やかな雰囲気での学習に取り組むことができている。一方、積極性に欠ける面もあり、発言に対し控えめであるという課題がある。</p>						

	<p>【指導観】 本単元における全体の学習を通して、アフリカ州の産業と人々の生活の変容について、できる限り生徒自身の言葉で表現させることによって考えを深めさせたい。そして、状況に応じて課題に対する考えを発表させ、生徒に自分自身の考えの変容や深まりを実感させる。 また、ICT 機器を積極的に活用して資料提示を工夫し、生徒の興味・関心を引き出したい。</p>			
6. 単元計画（全3時間）				
	小単元名	学習のねらい	学習活動	資料など
1	アフリカ州をながめて	自然、歴史と文化、産業の特色に関する基礎的・基本的な知識を身に付ける。	雨温図、分布図、写真などの資料を概観する。	教科書、地図帳 ICT 機器
2 本時	アフリカの産業と新たな開発	プランテーション農業やモノカルチャー経済の実態を読み取る。 国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察する。	主題図や貿易統計を読み取る。	教科書、地図帳 ICT 機器
3	発展に向けた課題	ナイロビ市内およびアフリカ各地域と日本、世界の共通性と相違点について考察することができる。 アフリカ州の課題について、都市化、人口増加、環境問題などの視点から理解する。	ナイロビ市内の二つの写真およびアフリカ各地域と日本、世界における乳児死亡率を比較する。	教科書、地図帳 ICT 機器
7. 本時の展開（2時間目）				
本時のねらい プランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取る。 アフリカ州の産業から、国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察する。				
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態		指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (5分)	地図帳でザンビアの位置を確認する。 教科書の学習課題を確認する。		「見つけた生徒から立つ・座る」指示を適宜出し、生徒の集中力が途切れることがないように工夫する。 「周りの人と話し合ってみよう」と指示を適宜出し、生徒の集中力が途切れることがないように工夫する。	教科書 地図帳 ICT 機器
展開 (5分)	生徒が個人で教科書を読む。 ・学習課題の答えが何か留意して読む。 ・初めて知ったこと、疑問に思ったことを教科書に適宜チェックを入れる。			
(5分)	学習課題の答えを話し合い、発表する。 アフリカの産業の仕組み、モノカルチャー経済について理解する。			
(20分)	豊富な鉱産資源について理解する。 ザンビアの鉱産資源が何かを考察する。 貿易上の地理的課題を考察する。 タンザン鉄道敷設の背景を理解する。 日本は何ができるかを考察し発表する。			
(10分)	プランテーション農業について理解する。			
まとめ (5分)	学習課題を再確認する。			

<p>8. 評価規準に基づく本時の評価方法</p> <p>Microsoft Forms を活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プランテーション農業やモノカルチャー経済の実態について、主題図や貿易統計から読み取ることができる。 ・アフリカ州の産業から、国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察することができる。
<p>9. 学習方法及び外部との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義型の授業を基調としつつ、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす ・11月に青年海外協力隊の方に講演をしていただく予定
<p>10. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組</p> <p>HR（学級目標、日直のスピーチなど）・総合的な学習の時間（統計との関連づけ）・生徒会活動</p>

【自己評価】

11. 苦労した点	国際支援がなぜ必要なのかを多面的・多角的に考察させることに苦労した。
12. 改善点	モノカルチャー経済の実態などについて、主題図や貿易統計から読み取らせることを通して、より「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしたい。
13. 成果が出た点	アフリカ州の産業と人々の生活の変容について、考えを深めさせることができた。
14. 学びの軌跡	本時の授業を通して「国際支援」のあり方を考えさせることができた。また、11月には校外学習でお台場方面へ行き、科学未来館や Panasonic センターなどの見学を通して、SDGs について理解を深めさせた。2月には「興味関心×統計×SDGs⇄社会貢献」をコンセプトに、生徒約120名が個々にポスターセッションを行なった。本授業の実践が、今年度の一連の取り組みの足がかりとなった。
15. 授業者による自由記述	国際協力出前講座を活用し、11月に青年海外協力隊の野崎雅貴氏に講演をしていただいた。ザンビアでの取り組みだけでなく、パラリンピック選手のサポートについても話を伺うことができた。オリンピック・パラリンピックのキュレーション学習をしていた経緯があり、アフリカ州の学習に加えて複合的に生徒が理解を深めることができた。JICA 東京に深く感謝している。

参考資料：令和3年度 中学校社会科 文部科学省検定済教科書（2020）『新しい社会 地理』東京書籍
 帝国書院編集部（2020）『中学校社会科地図』帝国書院